

瀬戸内国際芸術祭2016にて 清水久和が新作「愛のボラード」を発表 「オリーブのリーゼント」に続く、小豆島でのアートプロジェクト第2弾



プロダクトデザイナー 清水久和は、2016年3月20日（日）から開催される現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2016」に参加し、小豆島の「二十四の瞳 映画村」で新作「愛のボラード」を発表します。同芸術祭への清水の参加は、話題作「オリーブのリーゼント」を小豆島で発表した前回（2013年）に続き2回目となります。

作品の背景

作品が設置される「二十四の瞳 映画村」は、その名の通り、小豆島を舞台とした映画の懐かしい風景を保存し、公開している施設です。瀬戸内海に面した敷地には、昭和初期の小さな村が再現されています。映画村を訪れた清水は、「海」「船」「映画」「記憶」といったキーワードから、海沿いのしっとりとした景観に馴染むと同時に、映画村のある地域にふさわしいシンボルとしての強度を持つ作品を構想しました。

作品コンセプト

「ボラード」とは、岸壁に設置して船を繫留するための杭のこと。海に面して開けた静かな場所に立つ巨大なボラードを立てることで、海からやってくるはずの「何か」に対して、人々の想像力をかき立てます。どんな大きなものでも繫ぎとめられそうな力強く無表情な造形は、ボラードに元来備わっていた謎めいた存在感を増幅させ、海沿いにあってしかるべき存在に象徴性を与えるのです。

地域との交流について

瀬戸内国際芸術祭2013で「オリーブのリーゼント」を発表して以降、清水はたびたび小豆島を訪れ、地域の子供とのワークショップなどさまざまなかたちで地域の人々と交流を続けてきました。清水のライフワークでもある「愛のバッドデザイン」を小豆島の青年たちとともに展開するプロジェクト「愛のバッドデザインin小豆島」もその一つであり、プロジェクトの成果は今回の芸術祭の関連イベントとして発表されます。作品のモチーフであるボラードは、かつて清水が見出したバッドデザインの一つです。その意味で、「愛のバッドデザインin小豆島」を清水なりに展開したものとも言えるでしょう。

また、「愛のボラード」は、日本で唯一の大型ヨットメーカーである小豆島の岡崎造船株式会社で制作されました。作品の設置にあたっては島内各所の協力の下造船所から映画村までの道路を半ば占有しつつ輸送するなど、小豆島町の人々と清水の厚い信頼関係によって完成した作品です。

瀬戸内国際芸術祭2016について

瀬戸内国際芸術祭は、瀬戸内海の島々を舞台に3年に1度開催される現代アートの祭典です。2010年に第1回、2013年に第2回を開催し国内外より100万人以上の来場者を記録、大きな反響を呼んできました。第3回となる今回も、現代アートの世界を代表する作家たちが参加します。

会期 春 | 2016年3月20日 [日・春分の日] —4月17日 [日] 29日間

夏 | 2016年7月18日 [月・海の日] —9月4日 [日] 49日間

秋 | 2016年10月8日 [土] —11月6日 [日] 30日間

会場 直島 / 豊島 / 女木島 / 男木島 / 小豆島 / 大島 / 犬島 / 沙弥島 [春のみ] / 本島 [秋のみ] / 高見島 [秋のみ] / 粟島 [秋のみ] / 伊吹島 [秋のみ] / 高松港・宇野港周辺

主催 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 [会長 浜田恵造・香川県知事]

制作中の作品



瀬戸内国際芸術祭2013 出展作品「オリーブのリーゼント」とワークショップの様子



デザイナープロフィール



清水久和（しみずひさかず） プロダクトデザイナー

S&O DESIGN 株式会社代表。桑沢デザイン研究所非常勤講師。キヤノンのデジタルカメラ「IXY Digital」のチーフデザイナーとして同シリーズを世界シェアNo.1に導き、ドイツiF賞やグッドデザイン賞（Gマーク）を多数受賞。S&O DESIGN設立後も様々な企業の製品デザインを手がけている。瀬戸内国際芸術祭2013に出品した「オリーブのリーゼント」が人気を集め、2016年にはスペインのLLADRO（リヤドロ）から照明「Hairstyle Lamp」がリリースされるなど、多彩な活動が注目されている。

S&O DESIGN ホームページ：<http://sandodesign.com>



「Canon IXY DIGITAL 600」(2005年)



「オリーブのリーゼント」(2013年)



「フルーツ・テーブル・ランプ」(2011年)



「ラケットチェア」(2015年)



「ホワイトローズナチュラル」(2014年)



「FUMI」(2015年)